

## 平成二六年度 群馬大学教育学部 国語専攻 推薦入試問題

次の課題文を読んで後の問に答えなさい。

人が集まる場には、ある種の「空気」が支配し、それに同調することが求められます。

お葬式という場では、「冗談など言えない」「厳粛な空気」が支配し、人々は深刻な表情で重い言葉を交わします。同窓会という場では、気の置けない友人に会えた喜びから「華やかな空気」が支配し、人々は懐かしい話題に花を咲かせます。

誰と一緒にいるかによっても、その場の「空気」は影響を受けるでしょう。初めてのデートで二人だけになると、「緊張した空気」が漂います。ケンカしている相手と同席するはめになったとき、「気まずい空気」が充満します。

「空気」は変化するものです。会議の場にカリスマ性のある社長が姿を現すと、「ゆるんだ空気」が一瞬で「張りつめた空気」に変わります。初対面の人と話すとき、何となく「ぎくしゃくした空気」になりますが、おたがいの共通点が見つかったとたん、「和やかな空気」が流れ、話が弾みます。「空気」は不思議な存在です。

「空気」は支配されるだけでなく、働きかけて変えていくものです。スポーツの試合で点を取られ、「沈んだ空気」が立ちこめたとときでも、ムードメーカーの一言が笑いを呼び、「明るい空気」に包まれることがあります。私が大学でゼミの司会をするとき、メンバーの厳しい質問によって「険悪な空気」になりそうなときは、冗談を交えながら「和やかな空気」になるように努めます。

よい空気は私たちを自由にします。「穏やかな空気」「落ち着いた空気」「リラックスした空気」に満たされると、おたがいの距離が近くなり、親しいコミュニケーションが可能になります。

しかし、空気はよいものばかりではありません。「重苦しい空気」「よどんだ空気」「陰鬱な空気」が立ちこめると、私たちのコミュニケーションは、とたんにうまくいかなくなりま

(石黒圭『日本語は「空気」が決める』より)

問 国語の授業時間における「空気」について、課題文の内容を踏まえた上で、あなたの考えを六〇〇字以内で書きなさい。